

式　　辞

能登半島地震、奥能登豪雨により犠牲になられた方々に心からお悔やみ申し上げるとともに、被災された方々にお見舞い申し上げます。

復旧・復興の途上にありますが、本日、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席を賜り、「第77回卒業証書授与式」を挙行できますことに、心より感謝申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました187名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

保護者の皆様におかれましては、お子様がこの晴れの日を迎えるされましたことに、心よりお祝い申し上げますとともに、今日までのご支援・ご協力に教職員一同、厚く御礼を申し上げます。

卒業生の皆さんの中にはコロナ禍を経て地震・豪雨による被害があり、苦労・制約の多いものとなりました。しかし、その一方で、「未来をつくっていくのは私たち自身」という実感を強く持つことができたのではないでしょうか。

コロナ禍では何もせずに諦めるのではなく、感染防止策を施して「できることからやってみよう」と生徒全員が考え方行動しました。その結果、学校祭をはじめとして様々なことを素晴らしい内容でやり遂げました。

地震・豪雨災害からの「能登の創造的復興」に、次の時代を担う高校生の意見は欠かせないと多方面から求められ、発信しました。

それらの経験を通して、皆さん「社会を築いていくのは私たちという当事者意識」を持つことができたことは、皆さんの歩みに良い影響、夢と希望をもたらしたはずです。

能登の復旧・復興はなかなか進んでいないと言われますが、それは「過去に例を見ない課題」に直面している証であるとも言えます。現代社会には「まだ正解のない問い」が溢れており、それらの課題に対して、私たちが力を合わせて「共に挑み、解決を図ること」が求められています。

そこで、卒業にあたりあらためて皆さんにお伝えしたいことが次の二つです。

一つは「新しいアイデアは、すでにある要素の新しい組み合せから生まれる」、「イノベーションは異質な物の掛け算から生じる」ということです。組み合せをつくるには素となる知識が必要です。よって、学びの継続は不可欠ですが、単に知識があるだけでは不十分で、一見関係ないと思われる知識を組み合わせる力が重要です。

もう一つは、新しいアイデアを求めて仲間と共に挑む際には、「お互いを否定し合うコミュニケーションではなく、お互いの意見を重ね合い、共に創りあげるコミュニケーション」が欠かせません。

以上のこととは、実は七尾高校が日々の教育活動で大切にし、生徒の皆さんにつけて欲しいと願ってきた力です。ぜひ、共に創りあげるコミュニケーションで、全く新しい組み合せを生み、まだ正解のない問いを解くアイデアを見出してください。そして、そのアイデアを形にすべく、熱い情熱を持って高い行動力を發揮することを期待します。

最後になりますが、今日の卒業式を経て、皆さん「七尾高校第77回生」となります。「七」にたくさんご縁がある皆さんと、同窓会などで元気に再会できることを楽しみにしながら、皆さんの前途に幸多かれと心から願い、式辞といたします。

令和7年3月4日
石川県立七尾高等学校
校長　樋　上　哲　也